

## 平成28年度 保育士自己評価

### 【たんぽぽ組、ちゅうりっぷ・すみれ組…一人一人の子どもの日課とクラスの流れはうまくいったか】

- ・家庭での生活リズムと、子どもの様子を考慮しながら保育を行った。
- ・食事や排泄などに時間がかかっている時は、保育士同士でフォローし合いながら、子ども達の生活リズムを崩さないよう心がけた。
- ・生活リズムが一定でない子どもに対しては、その日のその子に合わせた対応を心がけてはいたが、毎日の流れや他の子どもたちとの兼ね合いを考えると変更してあげられないこともあった。

### 【たんぽぽ組、ちゅうりっぷ・すみれ組…担当制保育とクラスの流れはうまくいったか】

- ・グループごとに分かれて戸外遊びや活動をすることで、部屋で過ごす人数も少なくなり、落ち着いた環境作りが出来た。
- ・月齢の低い子どもや新入園児の食事の際には、一対一で対応する必要があるため、その間に遊んでいる子ども達に目が行き届きにくいところがあったが、保育士同士でフォローし合いながら保育を行った。
- ・毎日同じ保育士が同じ手順で保育を行うことで、子ども達に安心感を与えられるよう心がけた。担当保育士との信頼関係が築けてくると、子ども達の方から、“あれがしたい！”や“これができたよ！”などと伝えてくれるようになり、子ども達の成長を感じることができた。

### 【ゆり組、さくら組…生活の流れ(日課)や教室・行事への取り組みについて、どうだったか】

- ・運動遊具や園庭を使う遊びは5才児と連携して行った。落ち着いて活動が出来るよう、遊びごとに教室を分けて、月計画をたてた。
- ・一日の流れに見通しがもてるよう、帰りの会で翌日の予定を子ども達に伝えていた。事前に知らせておくことで、積極的に活動に参加する姿が見られた。
- ・毎日同じ流れで、時計を見ながら行動をするよう心がけた。友達同士で教え合う姿も見られ、活動がスムーズに進んだ。
- ・園外行事では、“みんなで協力して頑張ること”“周りに認められ達成感を味わうこと”を経験し、意欲的に取り組むことができた。

### 【全クラス…主体性を育む保育、丁寧な育児について、どんなことに心がけたか】

- ・子どもが自ら好きな遊びを見つけられるよう、遊びを見守ったり、援助をした。また、保育士が実際に遊ぶ姿を見せるなど工夫をしながら、遊びの楽しさを知ってもらえるよう心がけた。
- ・子どもの気持ちを言葉で代弁し、受け止めた上で話しをするようにした。
- ・泣いたり、怒ったりしている子どもには、一度落ち着かせてから、気持ちを言葉で伝えられるよう関わった。
- ・出来るだけ「どうしたらいいかな？」と子ども達に問いかけながら、子ども達と一緒に考えて、一人一人の気持ちに寄り添えるよう心がけた。
- ・年間を通して、どこまで子ども達に挑戦させるか、どのくらいの援助をするかなどを保育士同士で話し合いながら保育を行った。
- ・声かけをして子どもの反応を待ったり、自分でやってみようとする時は急かさず見守り、意欲を持って挑戦する機会を大切にした。
- ・子ども達が選択し、活動出来るよう環境作りをした。必要な時だけ指示をし、それ以外は子ども達自身が考え、意見を出し合ったり、行動が出来るような声かけや対応を心がけた。

### 【0,1才児、1,2才児、3,4才児縦割り保育を伸ばせたところと課題はなにか】

- ・月齢の高い子は小さい子に関心を持ち接することで、愛情や優しさが芽生えたのではないかと思う。反対に月齢の低い子は、大きい子の姿を見て刺激を受けて、より活動的になれたと思う。発達の違いが大きい為、それぞれの発達を促す環境を整えることが課題であると感じた。
- ・遊びに集中している子どもの邪魔をして、トラブルになってしまうことがあった為、コーナーの作りや、援助の仕方を今後工夫する必要があると思った。
- ・ペアを組んで活動している、年少・年中児は、徐々に信頼関係ができ、保育士の声かけがなくても、自発的に年少児のお世話をしたり、年中児に頼ったりする姿が見られるようになった。

### 【全クラス…コーナーのバランスと変化をさせる上で、どんなことに気をつけたか】

- ・“静と動”の場を設けて、子ども達がのびのびと過ごせるよう工夫した。
- ・子ども達がどんな遊びに興味を示しているか、発達段階を踏まえたコーナー作りを心がけた。月に1回はコーナー棚の内容を見直し、子ども達が飽きないよう工夫した。
- ・コーナーごとに統一感をもたせ、一人で集中して取り組むスペースと、友達と一緒に楽しめるスペースを作るようにした。
- ・コーナーの内容を全て変えるのではなく、継続するものと変更するものを考えた。おもちゃの量や数も必要に応じて増減させた。
- ・子ども達の発達において、必要な部分を伸ばせるような内容にすること、季節に合ったものを取り入れるよう心がけた。また、子ども達が取り出しやすく、遊びやすい道具を使うことにも気を付けた。

### 【全クラス…ヒヤリハット事案(事故・人間関係)と、その対策はどんなことか】

- ・つかまり立ちをする子は、バランスを崩すこともあるため側についていた。子どもの側を離れるときは、保育士に必ず声をかけてその場を離れるようにした。
- ・噛みつきや、手が出やすい子が離れた場所にいる時もしっかり見守り保育を行った。また、そのような子には一人で集中して遊びを楽しめるスペースの確保も行った。
- ・午睡時は、布団の間隔を空け、毛布などが口元や鼻に被らないよう気を付けた。うつぶせ寝をしている子どもがいれば仰向けにし、寝ている間も注意して見守った。
- ・給食では、しっかり噛むように声かけをしたり、小さなおもちゃは使用しないなど、のどに詰まらせることがないように注意した。
- ・子ども同士でトラブルが起きた際には、当事者間の問題で済ませず、他の子ども達にも伝えて同じ事を繰り返さないようにみんなで考えるようにした。
- ・アレルギー児への誤飲、誤食防止のために、テーブルを分けたり、おぼんの色を変えるなどの対応をした。